

平成24年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年1月11日

上場会社名 株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス  
 コード番号 2927 URL <http://www.ams-life.com/>

上場取引所 大

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅山雄彦  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役社長室長 (氏名) 白鳥弘之

TEL 054-281-5238

四半期報告書提出予定日 平成24年1月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年8月期第1四半期の連結業績(平成23年9月1日～平成23年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年8月期第1四半期	3,744	4.0	210	3.8	201	21.3	129	98.5
23年8月期第1四半期	3,601	0.2	203	△19.8	165	△32.7	65	△46.5

(注) 包括利益 24年8月期第1四半期 122百万円 (85.8%) 23年8月期第1四半期 65百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年8月期第1四半期	10.84	—
23年8月期第1四半期	5.46	5.46

当第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告9号 平成22年6月30日)を適用しております。

当第1四半期連結会計期間において株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年8月期第1四半期	17,835	5,460	30.6
23年8月期	17,939	5,457	30.4

(参考) 自己資本 24年8月期第1四半期 5,460百万円 23年8月期 5,457百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年8月期	—	50.00	—	100.00	150.00
24年8月期	—	—	—	—	—
24年8月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社では平成23年9月1日付で、1株を10株とする株式分割を行っております。23年8月期は、分割前の発行済株式に対するものであり、24年8月期は、分割後の発行済株式に対する予定であります。

3. 平成24年8月期の連結業績予想(平成23年9月1日～平成24年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	7,400	3.8	400	△13.8	380	△11.4	200	△3.6	16.77
通期	15,000	2.4	900	△12.2	850	△14.7	500	2.0	41.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 1株当たりの純利益は、発行済株式数11,919,981株により算定しております。

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年8月期1Q	12,189,720 株	23年8月期	12,189,720 株
② 期末自己株式数	24年8月期1Q	269,739 株	23年8月期	269,690 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年8月期1Q	11,920,015 株	23年8月期1Q	11,915,530 株

当第1四半期連結会計期間において株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、23年8月期の期末発行済株式数及び期末自己株式数、23年8月期1Qの期中平均株式数を算定しております。

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・当社は、平成23年9月1日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を実施しております。
- ・本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信の添付資料3ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期(平成23年9月1日～平成23年11月30日)におけるわが国の経済は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるものの、サプライチェーンの復旧などに伴い回復の傾向にあります。しかしながら、円高の進行、米国、欧州の金融不安などにより、先行きは依然不透明な状況で推移しております。

当社が属する健康食品業界は、高齢化社会を迎え、消費者の健康維持・増進に対する意識は高く、予防医学の観点から今後さらに需要が高まると予想されます。

このような状況の中、AFC-HDアムスライフグループでは、営業・販売体制の強化を目的に9月1日、販売子会社である(株)正直村、(株)AFCもりやを(株)エーエフシーに吸収合併いたしました。また、新工場の稼働に伴い大口受注件数が増加するなど堅調に推移いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結売上高は、3,744百万円(前年同期比4.0%増)となりました。損益面については、増収効果及び経費節減に努めたことなどにより、新工場の固定費増加を抑えて、営業利益210百万円(前年同期比3.8%増)となりました。また、前年同期に営業外費用に計上したシンジケートローン手数料が無くなったことで、経常利益は201百万円(前年同期比21.3%増)となり、四半期純利益は税効果などの影響も加わり、前年同期比98.5%増の129百万円となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

## ①ヘルスケア事業

## ・OEM部門

当社主力のOEM部門は、当第1四半期の3ヶ月間、月間売上高過去最高額を連続で更新し、前年同期比34.0%増となりました。既存取引先の伸長によるところが大きく、引き続き、グルコサミン、コンドロイチンなどの関節系、ブルーベリー、ルテインなどのアイケア系、青汁、黒酢などの伝統食品系の好調に加え、食欲抑制、吸収阻害などのダイエット商品も売上に寄与しました。当第1四半期より稼働を始めた新工場は医薬品GMPに準拠した構造設備及び製造環境を有する設計となっています。これにより生産能力は飛躍的に向上し、より高度な技術との融合によって、品質の信頼性につながるものと考えます。新工場の誕生を受けて大口商品受注についても順調に進捗いたしました。

## ・海外部門

これまでの販売実績からアジア地域におけるAFC商品の信頼性や認知度は高く、コラーゲンなど美容関連商品は好調に推移いたしました。また、市場での風評被害も少しずつ和らぎをみせ、韓国向けの売上は一時期の低迷した時期を脱皮し、タイ、ベトナムについては新規顧客を獲得する見通しが得られております。輸入解禁が見込まれる中国においては、公的証明書の取得など各種提出書類作成を精力的に行いました。しかしながら、長引く円高、放射能汚染の影響は大きく、当初の販売計画を下回った結果に終始しました。

## ・通信販売部門

効果的なTVショッピング枠の活用など、効率的な広告宣伝により新規獲得顧客数、受注件数も前年同期に比べ増加いたしました。特に顧客のニーズを的確に捕らえた爽快柑シャンプーを筆頭に爽快柑シリーズ全体の売上が好調に推移しております。しかしながら、購入単価の低下などにより全般的に苦戦を強いられました。売上低迷から脱却するため、これまでの販売実績をあらゆる視点にたって再分析を行い、商品の信頼性及び顧客の満足度につながる策を推進してまいります。

## ・卸販売部門

販路拡大に向けた戦略として展示会に化粧品、美容関連食品などを出展し、また、ダイエットリゾットなどについても積極的に拡販に努めた結果、新規卸先を獲得することができました。しかしながら、利益率の低い商品の販売を中止したほか、放射能汚染による影響は国産ブランドへの不信感にもおよび、自然食品の売上実績にもその兆候が現われ、売上高は前期を下回る結果となりました。

## ・店舗販売部門

今期、新たに浜松市にある遠鉄百貨店内に自然食品を扱う「正直村」・健康食品、自然化粧品などを販売する「AFCの森」の2店を新規出店し、全国の店舗数は合わせて74店舗となりました。一昨年12月に上市した「La Vie PLACENTA」はセミナー販売を実施するなど注力し依然好調な売上推移を維持しており、発売後1周年が経過した今日「百貨店商品」の一隅に値する商材に成長することができました。しかしながら、百貨店業界の低迷、放射能汚染による国産ブランドへの不信感が影響し、前年同期に比べ減収となりました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高3,348百万円(前年同期比5.7%増)、営業利益300百万円(前年同期比2.2%増)となりました。

②医薬品事業

医薬品市場に占める医療漢方及び一般用等を含めて、ここ数年来は僅かな伸びを示しているものの、薬価の引下げや生薬原料の高騰によって、利益が出難い状況になっております。本来、伝承医学から承認された医療用漢方製剤の安全性や有効性及び配合処方については品質同等性が極めて高く、医師、薬剤師及び医薬品卸の営業担当者に対して、当社製品の有用性を言及してきました。また、一般用医薬品事業についても、リニューアル製品の投入、積極的な営業活動、及び販売促進活動などを行いました。特にドラッグストアの商品担当者に対して、当該製品の医療現場での臨床例などを中心に情報提供活動を展開してきました。一方で製造部門においては全製造品目を対象に、詳細な生産コスト分析を実行して問題点を抽出し、効率的な生産体制に改善することができました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高396百万円（前年同期比8.8%減）、営業利益13百万円（前年同期比24.2%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①流動資産

当第1四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ43百万円増加し、8,292百万円となりました。この増加要因は主として、流動資産のその他が155百万円減少した反面、現金及び預金が112百万円、原材料及び貯蔵品が96百万円増加したことによるものであります。

②固定資産

当第1四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ146百万円減少し、9,542百万円となりました。この減少要因は主として、減価償却などにより有形固定資産が133百万円減少したことによるものであります。

③流動負債

当第1四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ828百万円増加し、7,422百万円となりました。この増加要因は主として、未払法人税等が135百万円減少した反面、短期借入金が894百万円、支払手形及び買掛金が102百万円増加したことによるものであります。

④固定負債

当第1四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ935百万円減少し、4,952百万円となりました。この減少要因は主として、長期借入金が885百万円減少したことによるものであります。

⑤純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2百万円増加し、5,460百万円となりました。この増加要因は主として、四半期純利益の計上により利益剰余金が10百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年10月14日発表の平成24年8月期業績予想に修正はありません。

## 2. サマリー情報(その他)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 1 株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号平成22年6月30日)を適用しております。

当第1四半期連結会計期間において株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,697,563	3,810,428
受取手形及び売掛金	2,227,489	2,217,573
有価証券	57,440	—
商品及び製品	810,816	810,883
仕掛品	474,207	523,452
原材料及び貯蔵品	599,064	695,843
その他	443,964	288,436
貸倒引当金	△60,780	△53,643
流動資産合計	8,249,765	8,292,974
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,708,947	3,633,971
土地	3,785,709	3,785,709
その他(純額)	1,433,905	1,375,746
有形固定資産合計	8,928,562	8,795,428
無形固定資産		
のれん	107,513	86,543
その他	46,265	66,013
無形固定資産合計	153,778	152,556
投資その他の資産		
その他	622,347	610,058
貸倒引当金	△15,082	△15,081
投資その他の資産合計	607,264	594,977
固定資産合計	9,689,606	9,542,962
資産合計	17,939,371	17,835,936
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,727,490	1,830,310
短期借入金	3,425,407	4,319,662
未払法人税等	222,876	87,645
賞与引当金	125,100	180,419
ポイント引当金	58,000	56,000
その他	1,035,266	948,800
流動負債合計	6,594,140	7,422,838
固定負債		
社債	650,000	650,000
長期借入金	3,820,012	2,934,567
役員退職慰労引当金	329,205	329,168

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年11月30日)
退職給付引当金	138,903	147,579
負ののれん	21,168	11,706
その他	928,090	879,336
固定負債合計	5,887,380	4,952,357
負債合計	12,481,520	12,375,196
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,405,498	1,405,498
資本剰余金	1,482,684	1,482,684
利益剰余金	2,829,224	2,839,241
自己株式	△198,929	△198,961
株主資本合計	5,518,477	5,528,463
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△60,626	△67,723
その他の包括利益累計額合計	△60,626	△67,723
純資産合計	5,457,851	5,460,740
負債純資産合計	17,939,371	17,835,936

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年9月1日 至平成22年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成23年11月30日)
売上高	3,601,753	3,744,996
売上原価	2,261,218	2,498,722
売上総利益	1,340,535	1,246,274
販売費及び一般管理費	1,137,392	1,035,387
営業利益	203,143	210,886
営業外収益		
受取利息	480	42
受取配当金	5,533	818
負ののれん償却額	9,462	9,462
助成金収入	5,388	2,767
貸倒引当金戻入額	—	6,127
その他	3,620	7,854
営業外収益合計	24,484	27,072
営業外費用		
支払利息	20,278	35,092
シンジケートローン手数料	40,641	—
その他	756	1,521
営業外費用合計	61,677	36,613
経常利益	165,950	201,345
特別利益		
固定資産売却益	291	—
有価証券償還益	—	1,730
特別利益合計	291	1,730
特別損失		
固定資産除却損	202	2
特別損失合計	202	2
税金等調整前四半期純利益	166,039	203,074
法人税、住民税及び事業税	107,732	82,437
法人税等調整額	△6,800	△8,580
法人税等合計	100,932	73,856
少数株主損益調整前四半期純利益	65,107	129,217
四半期純利益	65,107	129,217

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年9月1日 至平成22年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成23年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	65,107	129,217
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	631	△7,096
その他の包括利益合計	631	△7,096
四半期包括利益	65,739	122,121
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	65,739	122,121
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成22年9月1日 至 平成22年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,166,654	435,099	3,601,753
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	3,166,654	435,099	3,601,753
セグメント利益	294,431	17,925	312,356

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	312,356
全社費用(注)	△109,213
四半期連結損益計算書の営業利益	203,143

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 平成23年9月1日 至 平成23年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,348,048	396,947	3,744,996
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	3,348,048	396,947	3,744,996
セグメント利益	300,835	13,580	314,416

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	314,416
全社費用(注)	△103,529
四半期連結損益計算書の営業利益	210,886

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。